
血液透析患者の末梢動脈疾患 (PAD) 診断における Pronto® の有用性

医療法人衆和会 長崎腎病院

○北田恭平、上川阿郁、林田征俊、矢野利幸、高木伴幸、澤瀬健次、原田孝司、船越 哲

【目的】

Masimo 社製 Pronto® で測定された灌流指標 (PI 値) による血液透析患者の PAD 診断の有用性を検討する。

【対象・方法】

視診・触診など臨床的に PAD が疑われる血液透析患者 46 名 (男 29 名、女 17 名、平均年齢 71.0 歳、平均透析歴 10.7 年) に Pronto® を用いて PI 値を測定し、皮膚再灌流圧 (SRPP 値) や透析関連因子との関連性を調査した。

【結果】

PI 値と SRPP 値および透析歴の間には中等度の正の相関が認められた。年齢の間には中等度の負の相関が認められた。SRPP 値のカットオフ値を 40mmHg 未満とした場合、40mmHg 未満群の PI 値は 40mmHg 以上群に対し有意に低かった。 ($P < 0.01$)

【考察】

今回、PI 値と SRPP 値に相関関係が認められたことより、Pronto® が PAD 診断に有用である可能性が示唆され、今後、PAD 診断機器としての位置づけを検討していく必要があると思われる。